

weak selection から作る topology について

久保 康幸 *

topology determined by weak selection

Yasuyuki Kubo *

Abstract

In this paper, I have noted my memo on article “Weak orderability of topological spaces”, V.Gutev, T.Nogura, *Topology Appl.* 157(2010)1249-1274.

昨年までの紀要では、[3] E.Michael “Topologies on spaces of subsets” *Trans.Amer.Math.Soc.* 71 (1951) 152-182 で、finite topology (= Vietoris topology) について見た。

今回の紀要は、その発展として [4] V.Gutev, T.Nogura “Weak orderability of topological spaces” *Topology Appl.* 157 (2010) 1249-1274. を読んで、selection について考えた。今回も、定理の後に () で、元の論文の番号を付けることがある。

1. Selections and weak selections.

用語 *The Vietoris hyperspaces.*

T_1 -space X に対し、 $\mathcal{F}(X)$ を X の non-empty closed subsets 全体とする。 $\mathcal{F}(X)$ に位相として Vietoris topology τ_V を考え、空間 $(\mathcal{F}(X), \tau_V)$ を X の Vietoris hyperspaces という。

(注) Vietoris topology は、昨年までの紀要で扱った finite topology のことである。

用語 *Selections and hyperspaces.*

全ての空間は、断らない限り infinite かつ Hausdorff とし、部分集合 $\mathcal{D} \subset \mathcal{F}(X)$ には、hyperspaces $(\mathcal{F}(X), \tau_V)$ の部分空間としての相対的 Vietoris topology τ_V を考える。map $f: \mathcal{D} \rightarrow X$ が a selection for \mathcal{D} であるとは、 $f(S) \in S$ for every $S \in \mathcal{D}$ となることである。selection $f: \mathcal{D} \rightarrow X$ が continuous であるとは、それが、relative Vietoris topology τ_V on \mathcal{D} に関して continuous となることである。簡単のため、そのことを f が Vietoris continuous, または τ_V -continuous であると言うことがある。

記号

selections に関連して、 $\mathcal{F}(X)$ の部分集合で次のも

のを考える:

$$\mathcal{F}_n(X) = \{S \subset X; 1 \leq |S| \leq n\}, \\ [X]^n = \{S \subset X; |S| = n, n \geq 1\}.$$

用語 *Weak selection.*

$\mathcal{F}_2(X)$ に対する selection f は、 X に対する weak selection と呼ばれる。

2. Weak selections and selection relations

記号 *Binary relations.*

relation \mathcal{E} on X について、 $x\mathcal{E}y$ と書いて $\langle x, y \rangle \in \mathcal{E}$ を表す。 \mathcal{E} の inverse relation \mathcal{E}^{-1} は、 $x\mathcal{E}^{-1}y \leftrightarrow y\mathcal{E}x$ として定義される。

X 上の relation \mathcal{E} を X の subset についての relation \rightarrow 拡張して、 $B, C \subset X$ について、 $B\mathcal{E}C \leftrightarrow B \times C \subset \mathcal{E}$ と書くことにする。そのとき、 $B\mathcal{E}C \leftrightarrow \forall y \in B \forall z \in C (y\mathcal{E}z)$ となる。ただし、 $x \in X$ のとき、 $\{x\}\mathcal{E}C$ でなく、 $x\mathcal{E}C$ と書く。

定義 *Selection relations.*

X 上の relation \mathcal{E} は、total かつ anti-symmetric のとき、selection relation という。そこで、selection relation が linear order となる必要十分条件は、それが transitive となることである。 X に対する weak selection f から、次のようにして順序関係の selection relation \preceq_f を作るができる。また、逆もできる。すなわち、selection relation $\mathcal{E} \subset X^2$ に対して、weak selection $f_{\mathcal{E}}$ for X を $f_{\mathcal{E}}(\{x, y\}) = x \leftrightarrow x\mathcal{E}y$ とすればよい。そこで、しばしば、 X に対する selection relation を \preceq_s といった、順序関係らしい記号で書くことにする。また、 $x, y \in X$ について、 $x \preceq_s y$ かつ $x \neq y$ という場合は、 $x \prec_s y$ と書くことにする。

記号 *Relation intervals*.

selection relation を扱う場合に、linear order の時のように、“intervals”(区間) というものを考える。 X 上の selection relation \prec_s と $x \in X$ について、

$$(\leftarrow, x]_{\prec_s} = \{y \in X; y \prec_s x\} \text{ と}$$

$$[x, \rightarrow)_{\prec_s} = \{y \in X; x \prec_s y\}$$

で、 \prec_s -closed intervals を考える。同様に、

$$(\leftarrow, x)_{\prec_s} = \{y \in X; y \prec_s x\} \text{ と}$$

$$(x, \rightarrow)_{\prec_s} = \{y \in X; x \prec_s y\}$$

で、 \prec_s -open intervals を考える。

また、 $x, y \in X$ について、:

$$(x, y)_{\prec_s} = (x, \rightarrow)_{\prec_s} \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s},$$

$$[x, y]_{\prec_s} = [x, \rightarrow)_{\prec_s} \cap (\leftarrow, y]_{\prec_s},$$

$$(x, y]_{\prec_s} = (x, \rightarrow)_{\prec_s} \cap (\leftarrow, y]_{\prec_s},$$

$$[x, y)_{\prec_s} = [x, \rightarrow)_{\prec_s} \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}$$

といったように組み合わせる。

注意. selection relation \prec_s は、transitive とは限らないから、interval $(x, y)_{\prec_s}$ と $(y, x)_{\prec_s}$ の両方が non-empty といったこともあり得る。 $[x, y]_{\prec_s}$ と $[y, x]_{\prec_s}$ 等でも同様である。

その例を次のように考えた。

selection relation の定義から totally(全ての元 x, y で、 $x < y$ or $y < x$), anti-symmetric(反対称的 $x < y \rightarrow y \not< x$) に気をつけて、4つの元の集合 $X = \{a, b, x, y\}$ に対して、relation が、 $a < b, x < y, x < a, a < y, y < b, b < x$ (\leftarrow 4つの元なので、6個の関係式)をみたすとする。

$a < b, x < y$ は逆でも構わない。が、仮に、こうして totally にする。

このとき、 $(x, \rightarrow) = \{a\}$, $(\leftarrow, y) = \{a\}$ より、 $(x, y) = \{a\}$ となる。 $(y, \rightarrow) = \{b\}$, $(\leftarrow, x) = \{b\}$ なので、 $(y, x) = \{b\}$ となる。どちらも non-empty である。

記号

X 上の selection relation \prec_s で定める interval においても、 X の subset A, B に対し、

$$(\leftarrow, A)_{\prec_s} = \{y \in X; y \prec_s A\},$$

$$(A, \rightarrow)_{\prec_s} = \{y \in X; A \prec_s y\},$$

$$(A, B)_{\prec_s} = (A, \rightarrow)_{\prec_s} \cap (\leftarrow, B)_{\prec_s}$$

などと表現を拡張する。

命題

\prec_s を X 上の selection relation とする。

$x, y \in X, A \subset X$ について、次が成り立つ。

$$(1) x \in (\leftarrow, y)_{\prec_s} \leftrightarrow x \prec_s y$$

$$(2) x \in (y, \rightarrow)_{\prec_s} \leftrightarrow y \prec_s x$$

$$(3) x \in (\leftarrow, A)_{\prec_s} \leftrightarrow x \prec_s A \leftrightarrow \forall y \in A (x \prec_s y)$$

$$(4) x \in (A, \rightarrow)_{\prec_s} \leftrightarrow A \prec_s x \leftrightarrow \forall y \in A (y \prec_s x)$$

また、(3),(4) より

$$(\leftarrow, A)_{\prec_s} = \bigcap \{(\leftarrow, y)_{\prec_s}; y \in A\}$$

$$(A, \rightarrow)_{\prec_s} = \bigcap \{(y, \rightarrow)_{\prec_s}; y \in A\}$$

となる。

3. Interval-like topologies.

用語 *Interval-like topologies*.

X 上の selection relation \prec_s に対し、family

$$\mathcal{S}_{\prec_s} = \{(\leftarrow, x)_{\prec_s}, (x, \rightarrow)_{\prec_s}; x \in X\}$$

を subbase として “ \prec_s -open” interval topology \mathcal{T}_{\prec_s} を X 上に考え、selection topology という。もし、 \prec_s が X 上の linear order であれば、 \mathcal{T}_{\prec_s} は、通常の open interval topology となる。

定理 3-1([4]theorem 2.2)

\prec_s を X 上の selection relation とする。そのとき、selection topology \mathcal{T}_{\prec_s} は regular である。

ここで、topology が regular(正則) とは、次のように考える。

用語 *regularity*.

space (X, \mathcal{T}) が T_1 -space であるとき、

topology \mathcal{T} が regular

$$\leftrightarrow \forall x \in X \forall U: \text{mbd. of } x \exists V: \text{mbd. of } x \text{ s.t. } \bar{V} \subset U$$

注. \mathcal{T} における V の閉包 (closure) を \bar{V} で表した。

V の閉包は、 $\text{cl}(V)$ と書いたり、topology \mathcal{T} を明示する場合は $\text{cl}_{\mathcal{T}}(V)$ と書いたりする。

定理 3-1 の証明を次のように整理した。

定理 3-1 の証明の概略

$x \in U, U \in \mathcal{T}_{\prec_s}$ を仮定する。 \mathcal{S}_{\prec_s} が \mathcal{T}_{\prec_s} の subbase であるから、non-empty finite subset $\mathcal{F} \subset \mathcal{S}_{\prec_s}$ を取って $x \in \bigcap \mathcal{F} \subset U$ とする。

もし、 $\text{cl}_{\mathcal{T}_{\prec_s}}(\bigcap \mathcal{F}) \subset U$ なら、 \mathcal{T}_{\prec_s} は regular である。そのように \mathcal{F} を直す代わりに、 \mathcal{T} から、

$V \subset \bigcap \mathcal{F}$ かつ、 $\text{cl}_{\mathcal{T}_{\preceq_s}}(V) \subset U$ をみたく V を作ることにする。

$\mathcal{F} \subset \mathcal{S}_{\preceq_s}$ より、 \mathcal{F} の要素は、 (\leftarrow, z) と (\rightarrow, z) , $z \in X$ の形をしている。 (\leftarrow, z) の部分と (\rightarrow, z) の二つに分けて、

$$A = \{z \in X; (z, \rightarrow) \in \mathcal{F}\},$$

$$B = \{z \in X; (\leftarrow, z) \in \mathcal{F}\}$$

とする。

$B = \emptyset$ のとき、 $(A, \rightarrow) = \bigcap \mathcal{F}$ である。 $A = \emptyset$ のとき、 $(\leftarrow, B) = \bigcap \mathcal{F}$ となる。 A, B のどちらも non-empty なら、 $(A, B) = (A, \rightarrow) \cap (\leftarrow, B) = \bigcap \mathcal{F}$ となる。いずれも $x \in (A, \rightarrow)$ や $x \in (\leftarrow, B)$ に対して、 $\text{cl}_{\mathcal{T}_{\preceq_s}}(V) \subset (A, \rightarrow)$ や $\text{cl}_{\mathcal{T}_{\preceq_s}}(V) \subset (\leftarrow, B)$ をみたく $V \ni x$ を得られれば良い。

ここでは、 A, B の状態を場合分けする代わりに、点 $x \in X$ を次の3通りに分けて考える。

用語 *maximal, minimal and cut point.*

\preceq_s を集合 X の selection relation で、 $x \in X$ に対して、

- (1) x が \preceq_s -maximal $\leftrightarrow \forall y \in X (y \preceq_s x)$ 、
 - (2) x が \preceq_s -minimal $\leftrightarrow \forall y \in X (x \preceq_s y)$ 、
 - (3) x が \preceq_s -cut $\leftrightarrow \exists a, b \in X (x \in (a, b)_{\preceq_s})$ 、
- と定める。

注. $x \in X$ のとき、「 x が \preceq_s -cut $\leftrightarrow (\leftarrow, x)_{\preceq_s} \neq \emptyset \neq (x, \rightarrow)_{\preceq_s}$ 」であるから、 \preceq_s -maximal でも \preceq_s -minimal でもない点を \preceq_s -cut と定めたことになる。

命題 3-2

\preceq_s が X 上の selection relation で、 $x \in U \in \mathcal{T}_{\preceq_s}$ とする。

- (1) x が \preceq_s -maximal point of X のとき、 $\exists A \subset X$ s.t. A : non-empty finite, $x \in (A, \rightarrow)_{\preceq_s} \subset U$ である。
- (2) x が \preceq_s -minimal point of X のとき、 $\exists B \subset X$ s.t. B : non-empty finite, $x \in (\leftarrow, B)_{\preceq_s} \subset U$ である。
- (3) x が \preceq_s -cut point of X のとき、 $\exists A, B \subset X$ s.t. A, B : non-empty finite, $x \in (A, B)_{\preceq_s} \subset U$ である。

証明. \mathcal{S}_{\preceq_s} が \mathcal{T}_{\preceq_s} の subbase であるから、non-empty finite subset $\mathcal{F} \subset \mathcal{S}_{\preceq_s}$ が $x \in \bigcap \mathcal{F} \subset U$ となるように取れる。

- (1) x が \preceq_s -maximal point of X のとき、任意の $y \in X$ に対し $x \notin (\leftarrow, y)_{\preceq_s}$ であるから、 $x \in \bigcap \mathcal{F}$

となる \mathcal{F} の要素に (\leftarrow, z) の形はあり得ない。よって、 $\mathcal{F} \subset \{(y, \rightarrow)_{\preceq_s}; y \in X\}$ である。

故に、 $A = \{y \in X; (y, \rightarrow)_{\preceq_s} \in \mathcal{F}\}$ とすると、 A は、 X の non-empty finite subset であって

$$\begin{aligned} x &\in (A, \rightarrow)_{\preceq_s} \\ &= \bigcap \{(y, \rightarrow)_{\preceq_s}; y \in A\} \\ &= \bigcap \mathcal{F} \subset U \end{aligned}$$

をみたく。

- (2) x が \preceq_s -minimal point of X のとき、任意の $y \in X$ に対し $x \notin (y, \rightarrow)_{\preceq_s}$ であるから、 $x \in \bigcap \mathcal{F}$ となる \mathcal{F} の要素に (z, \rightarrow) の形はあり得ない。よって、 $\mathcal{F} \subset \{(\leftarrow, y)_{\preceq_s}; y \in X\}$ である。

故に、 $B = \{y \in X; (\leftarrow, y)_{\preceq_s} \in \mathcal{F}\}$ とすると、 B は、 X の non-empty finite subset であって

$$\begin{aligned} x &\in (\leftarrow, B)_{\preceq_s} \\ &= \bigcap \{(\leftarrow, y)_{\preceq_s}; y \in B\} \\ &= \bigcap \mathcal{F} \subset U \end{aligned}$$

をみたく。

- (3) x が \preceq_s -cut point of X のとき、 $x \in (a_0, b_0)_{\preceq_s}$ となる $a_0, b_0 \in X$ を取り、

$$\begin{aligned} A_0 &= \{y \in X; (y, \rightarrow)_{\preceq_s} \in \mathcal{F}\}, \\ B_0 &= \{y \in X; (\leftarrow, y)_{\preceq_s} \in \mathcal{F}\}, \\ A &= A_0 \cup \{a_0\}, B = B_0 \cup \{b_0\} \end{aligned}$$

とする。

勝手な $y \in A$ を取る。 $y = a_0$ なら $y \prec_s x$ である。 $y \in A_0$ なら $(y, \rightarrow)_{\preceq_s} \in \mathcal{F}$ より $x \in (y, \rightarrow)_{\preceq_s}$ なので、 $y \prec_s x$ となる。故に、 $A \prec_s x$ である。

勝手な $z \in B$ を取る。 $z = b_0$ なら $x \prec_s z$ である。 $z \in B_0$ なら $(\leftarrow, z)_{\preceq_s} \in \mathcal{F}$ より $x \in (\leftarrow, z)_{\preceq_s}$ なので、 $x \prec_s z$ となる。故に、 $x \prec_s B$ である。

$A \prec_s x \prec_s B$ となるから、 $x \in (A, B)_{\preceq_s}$ である。

さらに、 $(A, B)_{\preceq_s} = \{z \in X; A \prec_s z \prec_s B\} \subset (A_0, B_0)_{\preceq_s} \cap (a_0, b_0)_{\preceq_s} \subset (\bigcap \mathcal{F}) \cap (a_0, b_0)_{\preceq_s} \subset U$ となる。

従って、 $x \in (A, B)_{\preceq_s} \subset U$ となる。(証明終)

注. 上の証明では、(3) で2点 a_0, b_0 を加えたことにより、 A_0, B_0 が non-empty となることを示す必要がない。

この命題で得た $(A, \rightarrow)_{\preceq_s}, (\leftarrow, B)_{\preceq_s}, (A, B)_{\preceq_s}$ を利用する前に、閉包についての性質を振り返り、topology \mathcal{T}_{\preceq_s} における閉集合について見ておく。

命題 3-3

space (X, T) の subset A について、その閉包を $\text{cl}(A)$ と表すとき、 $A, B \subset X$ に対し、

$$\text{cl}(A \cap B) \subset \text{cl}(A) \cap \text{cl}(B) \text{ となる。}$$

確認. $\text{cl}(A) \cap \text{cl}(B)$ が closed より $\text{cl}(\text{cl}(A) \cap \text{cl}(B)) = \text{cl}(A) \cap \text{cl}(B)$ である。 $A \subset \text{cl}(A), B \subset \text{cl}(B)$ より、 $A \cap B \subset \text{cl}(A) \cap \text{cl}(B)$ なので、
 $\text{cl}(A \cap B) \subset \text{cl}(\text{cl}(A) \cap \text{cl}(B)) = \text{cl}(A) \cap \text{cl}(B)$
(確認終)

命題 3-4

\prec_s を X 上の selection relation で、 $z \in X$ とする。
 $(\leftarrow, z]_{\prec_s}$ と $[z, \rightarrow)_{\prec_s}$ は、topology \mathcal{T}_{\prec_s} の closed set であり、その閉包は、

$$\begin{aligned} \text{cl}_{\prec_s}((\leftarrow, z]_{\prec_s}) &= (\leftarrow, z]_{\prec_s}, \\ \text{cl}_{\prec_s}([z, \rightarrow)_{\prec_s}) &= [z, \rightarrow)_{\prec_s} \text{ となる。} \end{aligned}$$

さらに、

$$\begin{aligned} \text{cl}_{\prec_s}((\leftarrow, z)_{\prec_s}) &\subset (\leftarrow, z]_{\prec_s}, \\ \text{cl}_{\prec_s}((z, \rightarrow)_{\prec_s}) &\subset [z, \rightarrow)_{\prec_s} \text{ となる。} \end{aligned}$$

確認. selection relation は total ゆえ、 z と異なる任意の $x \in X$ に対し、 $x \prec_s z$ または、 $z \prec_s x$ であるから、 $X \setminus (\leftarrow, z]_{\prec_s} = (z, \rightarrow)_{\prec_s}$: open となる。また、 $(\leftarrow, z) \subset (\leftarrow, z]$ であるから、 $\text{cl}_{\prec_s}((\leftarrow, z)_{\prec_s}) \subset (\leftarrow, z]_{\prec_s}$ となる。
 $[z, \rightarrow) : \text{closed}$ と、 $\text{cl}_{\prec_s}((z, \rightarrow)_{\prec_s}) \subset [z, \rightarrow)_{\prec_s}$ についても同様である。**(確認終)**

命題 3-5([4]lemma 2.3.)

\prec_s を set X 上の selection relation で、 $x, y \in X$ が $x \prec_s y$ とする。そのとき、
 $x \in U, \text{cl}_{\prec_s}(U \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}) \subset (\leftarrow, y)_{\prec_s}$ をみたす $U \in \mathcal{T}_{\prec_s}$ と、
 $y \in V, \text{cl}_{\prec_s}(V \cap (x, \rightarrow)_{\prec_s}) \subset (x, \rightarrow)_{\prec_s}$ をみたす $V \in \mathcal{T}_{\prec_s}$ が取れる。

特に、 $U \in \mathcal{T}_{\prec_s}$ が得られれば、

$$V = X \setminus \text{cl}_{\prec_s}(U \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}) \text{ とすれば良い。}$$

証明. 先ず、 $(x, y)_{\prec_s} \neq \emptyset$ の場合。 $z \in (x, y)_{\prec_s}$ をひとつ取る。 $x \prec_s z$ なので $x \in (\leftarrow, z)_{\prec_s}$ となる。
 $U = (\leftarrow, z)_{\prec_s}$ とすれば、 $x \in U \in \mathcal{T}_{\prec_s}$ である。

さらに、 $(\leftarrow, z]_{\prec_s}, (\leftarrow, y]_{\prec_s}$ が \mathcal{T}_{\prec_s} -closed より $\text{cl}(U \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s})$

$$\subset \text{cl}_{\prec_s}(U) \cap \text{cl}_{\prec_s}((\leftarrow, y)_{\prec_s})$$

$$\subset (\leftarrow, z]_{\prec_s} \cap (\leftarrow, y]_{\prec_s}$$

ここで、 $z \prec_s y$ より $y \notin (\leftarrow, z]_{\prec_s}$ なので、

$$(\leftarrow, z]_{\prec_s} \cap (\leftarrow, y]_{\prec_s} \subset (\leftarrow, y]_{\prec_s} \setminus \{y\} = (\leftarrow, y)_{\prec_s}$$

よって、 $\text{cl}_{\prec_s}(U \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}) \subset (\leftarrow, y)_{\prec_s}$ となる。

次に、 $(x, y)_{\prec_s} = \emptyset$ の場合。 $\forall z \prec_s y (z \prec_s x)$ である。つまり、 $(\leftarrow, y)_{\prec_s} \subset (\leftarrow, x]_{\prec_s}$ となる。そこで、 $(\leftarrow, x)_{\prec_s} \cup (\leftarrow, y)_{\prec_s} \subset (\leftarrow, x]_{\prec_s}$ となる。逆に、 $x \prec_s y$ より $x \in (\leftarrow, y)_{\prec_s}$ であるから、 $(\leftarrow, x)_{\prec_s} \cup (\leftarrow, y)_{\prec_s} \supset (\leftarrow, x)_{\prec_s} \cup \{x\} = (\leftarrow, x]_{\prec_s}$ をみたす。よって、 $(\leftarrow, x]_{\prec_s} = (\leftarrow, x)_{\prec_s} \cup (\leftarrow, y)_{\prec_s}$ であるから、 $(\leftarrow, x]_{\prec_s}$ は、 \mathcal{T}_{\prec_s} -open である。 $U = (\leftarrow, x]_{\prec_s}$ とすれば、 U は、 $x \in U$ をみたす。

また、 U は、 $y \notin U$ となる closed set であるから、 $\text{cl}(U \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s})$

$$\subset \text{cl}_{\prec_s}(U) \cap \text{cl}_{\prec_s}((\leftarrow, y)_{\prec_s})$$

$$= U \cap (\leftarrow, y]_{\prec_s}$$

$$\subset (\leftarrow, y)_{\prec_s} \setminus \{y\} = (\leftarrow, y)_{\prec_s}$$

よって、 $\text{cl}_{\prec_s}(U \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}) \subset (\leftarrow, y)_{\prec_s}$ となる。

(証明終)

定理 3-1 の証明

$x \in U, U \in \mathcal{T}_{\prec_s}$ を仮定する。 x の 3 つの場合に分けて、 $x \in V, \text{cl}_{\mathcal{T}_{\prec_s}}(V) \subset U$ をみたす V を作ることにする。

(1) x が \prec_s -maximal の場合。

命題 3-2 のように、 X の non-empty finite subset で、 $x \in (A, \rightarrow)_{\prec_s} \subset U$ をみたす A を取る。各 $z \in A$ に対し $z \prec_s x$ であるから、命題 3-5 のような開集合 $V(z)$ を取る。つまり、 $x \in V(z), \text{cl}_{\prec_s}(V(z) \cap (z, \rightarrow)_{\prec_s}) \subset (z, \rightarrow)_{\prec_s}$ とする。

$V = \bigcap \{V(z) \cap (z, \rightarrow)_{\prec_s}; z \in A\}$ とすれば、 $x \in V, V : \text{open}$ かつ、

$$\text{cl}_{\prec_s}(V) \subset \bigcap \{\text{cl}_{\prec_s}(V(z) \cap (z, \rightarrow)_{\prec_s}); z \in A\}$$

$$\subset \bigcap \{(z, \rightarrow)_{\prec_s}; z \in A\} = (A, \rightarrow)_{\prec_s} \subset U$$

となるから、この V が求めるものである。

(2) x が \prec_s -minimal の場合。

命題 3-2 のように X の non-empty finite subset で、 $x \in (\leftarrow, B)_{\prec_s} \subset U$ をみたす B を取る。各 $y \in B$ に対し $x \prec_s y$ であるから、命題 3-5 のような開集合 $U(y)$ を取る。つまり、 $x \in U(y), \text{cl}_{\prec_s}(U(y) \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}) \subset (\leftarrow, y)_{\prec_s}$ とする。

$V = \bigcap \{U(y) \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}; y \in B\}$ とすれば、 $x \in V, V : \text{open}$ かつ、

$$\text{cl}_{\prec_s}(V) \subset \bigcap \{\text{cl}_{\prec_s}(U(y) \cap (\leftarrow, y)_{\prec_s}); y \in B\}$$

$$\subset \bigcap \{(\leftarrow, y)_{\prec_s}; y \in B\} = (\leftarrow, B)_{\prec_s} \subset U$$

となるから、この V が求めるものである。

(3) x が \prec_s -cut point の場合。

命題 3-2 のように、 X の non-empty finite subset で、 $x \in (A, B)_{\prec_s} \subset U$ をみたす A, B を取る。 $(A, B)_{\prec_s} = (A, \rightarrow)_{\prec_s} \cap (\leftarrow, B)_{\prec_s}$ であるから、 A に対しては (1) のようにして、 B に対しては (2) の

ようにして、得られた開集合 V_A, V_B が、

$$x \in V_A, \text{cl}_{\prec_s}(V_A) \subset (A, \rightarrow)_{\prec_s},$$

$$x \in V_B, \text{cl}_{\prec_s}(V_B) \subset (\leftarrow, B)_{\prec_s}$$

をみたすとする。

このとき、 $V = V_A \cap V_B$ とすれば、

$x \in V, V : \text{open}$ かつ、

$$\text{cl}_{\prec_s}(V) \subset \text{cl}_{\prec_s}(V_A) \cap \text{cl}_{\prec_s}(V_B)$$

$$\subset (A, \rightarrow)_{\prec_s} \cap (\leftarrow, B)_{\prec_s} = (A, B)_{\prec_s} \subset U$$

であるから、この V が求めるものである。(証明終)

参考文献

[1] 久保康幸 “finite topology の basis について”
弓削商船紀要 第 32 号 (2009) pp.109–113.

[2] 久保康幸 “finite topology の basis について
(2)” 弓削商船紀要 第 33 号 (2010) pp.76–82.

[3] Michael, Ernest “Topologies on spaces of
subsets.” Trans. Amer. Math. Soc. 71, (1951)
pp.152–182.

[4] V.Gutev, T.Nogura “Weak orderability of
topological spaces” Topology Appl. 157, (2010)
pp.1249–1274.

[5] 児玉之宏・永見啓応 “位相空間論” 岩波書店
(1974).

[6] 森田紀一 “位相空間論 (岩波全書 331)” 岩波
書店 (1981).

[7] 松坂和夫 “集合・位相入門” 岩波書店 (1968).

[8] 青木利夫・高橋渉 “集合・位相空間要論” 培
風館 (1979).

[9] “岩波 数学辞典 第 3 版” 岩波書店 (1985).

[10] R. Engelking “General Topology” Revised
and completed edition, Helderman Verlag Berlin
(1989).

以前の紀要の訂正

これは、「finite topology の basis について」弓削商船紀要 第 32 号 (2009) pp.109–113 の中で、命題 3-1 の注 2 として述べた内容を訂正するものである。番号等は、その時の表示とする。

考察

もし、

$(\bigcup_{i=1}^n U_i \subset \bigcup_{i=1}^m V_i$ かつ $\forall V_j \exists U_i$ s.t. $U_i \subset V_j$) でなく、

$(\bigcup_{i=1}^n U_i \subset \bigcup_{i=1}^m V_i$ かつ $\forall U_j \exists V_i$ s.t. $U_i \subset V_j$) であれば、注 2 が言えたが、そうではなかった。

3.1 命題と定義を再掲する

記号 (Notation 1.4.)

$\mathcal{A}(X) = \{E \subset X; E \neq \emptyset\}$,

$2^X = \{E \subset X; E \text{ は closed, } E \neq \emptyset\}$

$= \{E \in \mathcal{A}(X); E \text{ は closed}\} \subset \mathcal{A}(X)$

記号 (Notation 1.5.)

X の subset の集まり $\{U_i\}_{i \in I}$ に対して、

$$\langle U_i \rangle_{i \in I} = \left\{ E \in 2^X; \begin{array}{l} E \subset \bigcup_{i \in I} U_i, \\ E \cap U_i \neq \emptyset \text{ (for all } i \in I) \end{array} \right\}$$

と書く。

もし $I = \{1, \dots, n\}$ なら、 $\langle U_i \rangle_{i \in I}$ を $\langle U_1, \dots, U_n \rangle$ と表す。

命題 3-1 . (Lemma 2.3.1.)

$(\langle U_1, \dots, U_n \rangle \subset \langle V_1, \dots, V_m \rangle)$

\Rightarrow

$(\bigcup_{i=1}^n U_i \subset \bigcup_{i=1}^m V_i$ かつ $\forall V_j \exists U_i$ s.t. $U_i \subset V_j$)

(注 1) " $\bigcup_{i=1}^n U_i \subset \bigcup_{i=1}^m V_i$ " と " $\forall V_j \exists U_i$ s.t. $U_i \subset V_j$ " は、別物である。

(注 2) この命題より、 $n \leq m$ のとき $\langle V_1, \dots, V_n \rangle \subset \langle V_1, \dots, V_m \rangle$ である。

3.2 注 2 を訂正する

実際には、 $n \leq m$ のとき

$\langle V_1, \dots, V_n \rangle \subset \langle V_1, \dots, V_m \rangle$ と、

$\langle V_1, \dots, V_n \rangle \supset \langle V_1, \dots, V_m \rangle$ の、

どちらもみたまない反例ができる。

反例

$V_i = \{i\} (i = 1, \dots, 4)$ とする。

このとき、 $\langle V_1, V_2, V_3 \rangle \ni \{1, 2, 3\}$

かつ $\langle V_1, V_2, V_3 \rangle \not\supset \{1, 2, 3, 4\}$ であるが、

$\langle V_1, V_2, V_3, V_4 \rangle \ni \{1, 2, 3, 4\}$

かつ $\langle V_1, V_2, V_3, V_4 \rangle \not\supset \{1, 2, 3\}$ となる。